

令和4年7月～9月期地域産業経営動向調査の結果をとりまとめました

堺市と堺商工会議所では、堺市内の景気動向を把握するため、令和4年7月～9月期の地域産業経営動向調査を以下のとおり実施し、調査結果をとりまとめました。

1 調査対象 堺市内に所在する事業所 800社（回答企業 403社 回答率 50.4%）

2 調査期間 令和4年9月12日（月）～令和4年9月26日（月）

3 調査結果概要

今期（7月～9月期）の前年同期比を見ると、業況判断DI、資金繰りDI、雇用人員DIがやや改善、売上高DIは横ばい、採算DIが2期連続でやや悪化となった。

来期（10月～12月期）の予測については、雇用人員DIが2期連続でやや改善、業況判断DI、採算DIが横ばい、売上高DI、資金繰りDIが悪化となった。

数値の推移としては、前年同期比は全体的に前回調査より改善した部分が多いものの、原材料費やエネルギー価格の急騰が影響したためか、来期予測は悪化している項目が多く、市内事業所の業況は未だに先が見通せない状態である。

新型コロナウイルス感染症の水際対策が緩和されるなど状況は変化しているものの、いまだにコロナ禍収束に向けた見通しが立たないことから、引き続き市内企業の動向については、注視していく必要がある。

○業況判断	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 22.3 \Rightarrow \Delta 19.9$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 19.9 \Rightarrow \Delta 19.6$ ）
○売上高	前年同期比の指標は横ばい（ $\Delta 10.2 \Rightarrow \Delta 9.4$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $\Delta 9.4 \Rightarrow \Delta 14.1$ ）
○採算	前年同期比の指標は2期連続でやや悪化（ $\Delta 16.1 \Rightarrow \Delta 17.1$ ） 来期見通しの指標は横ばい（ $\Delta 17.1 \Rightarrow \Delta 16.6$ ）
○資金繰り	前年同期比の指標はやや改善（ $0.7 \Rightarrow 2.0$ ） 来期見通しの指標は悪化（ $2.0 \Rightarrow \Delta 1.5$ ）
○雇用人員	前年同期比の指標はやや改善（ $\Delta 1.2 \Rightarrow 0.5$ ） 来期見通しの指標は2期連続でやや改善（ $0.5 \Rightarrow 3.0$ ）

問い合わせ先

担当課: 産業振興局 産業戦略部 産業企画課
電話: 072-228-7414
ファックス: 072-228-8816

令和4年7月～9月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関

堺商工会議所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数 DI 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所 800 社（建設業 200 社・製造業 200 社・卸売業 100 社・小売業 100 社・サービス業 200 社）
3. 調査期間 令和 4 年 9 月 12 日（月）～26 日（月）

4. 回収率	調査対象数	回収数	回収率	
	建設業	200 社	101 社	50.5%
	製造業	200 社	102 社	51.0%
	卸売業	100 社	50 社	50.0%
	小売業	100 社	50 社	50.0%
	サービス業	200 社	100 社	50.0%
	全産業	800 社	403 社	50.4%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別の DI 値の意味について】

- 業況判断 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、業況判断DI、資金繰りDI、雇用人員DI、売上高DIは横ばい、採算DIが2期連続でやや悪化となった。

来期(10月～12月期)の予測については、雇用人員DIが2期連続でやや改善、業況判断DI、採算DIが横ばい、売上高DI、資金繰りDIが悪化となった。

数値の推移としては、前年同期比は全体的に前回調査より改善した部分が多いものの、原材料費やエネルギー価格の急騰が影響したためか、来期予測は悪化している項目が多く、市内事業所の業況は未だに先が見通せない状態である。

新型コロナウイルス感染症の水際対策が緩和されるなど状況は変化しているものの、いまだにコロナ禍収束に向けた見通しが立たないことから、引き続き市内企業の動向については、注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標はやや改善。
($\Delta 22.3 \Rightarrow \Delta 19.9$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 19.9 \Rightarrow \Delta 19.6$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業は改善、小売業はやや悪化、卸売業は悪化、サービス業は3期連続で悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



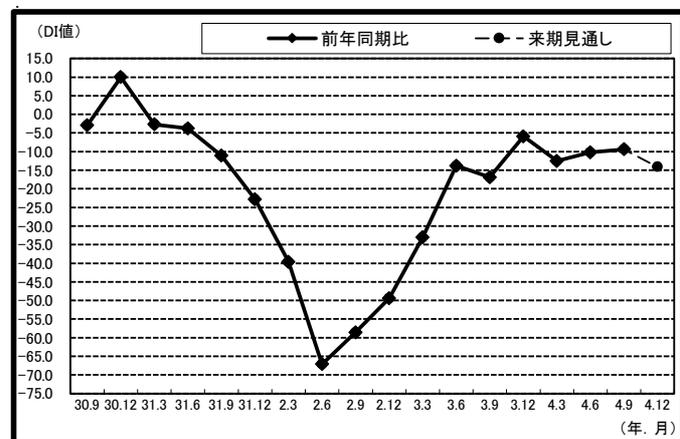
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は横ばい。
($\Delta 10.2 \Rightarrow \Delta 9.4$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($\Delta 9.4 \Rightarrow \Delta 14.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、製造業、サービス業は改善、建設業は横ばい、小売業はやや悪化、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は横ばい。



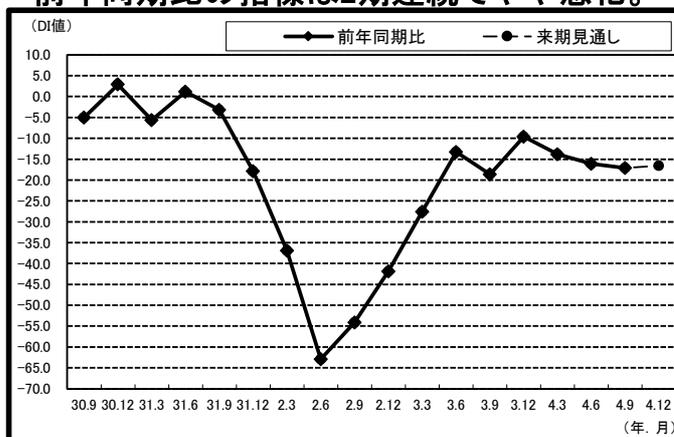
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は2期連続でやや悪化。
($\Delta 16.1 \Rightarrow \Delta 17.1$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 17.1 \Rightarrow \Delta 16.6$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
製造業、サービス業は改善、小売業はやや改善、建設業、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標は2期連続でやや悪化。



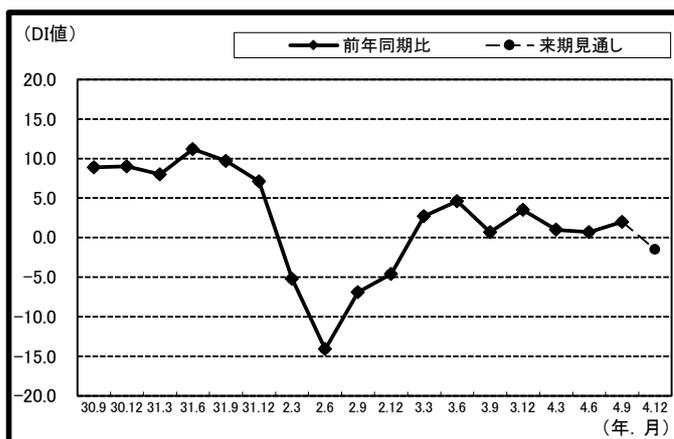
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標はやや改善。
($0.7 \Rightarrow 2.0$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($2.0 \Rightarrow \Delta 1.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
製造業、サービス業は改善、建設業は2期連続で横ばい、卸売業はやや悪化、小売業は2期連続で悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標はやや改善。
($\Delta 1.2 \Rightarrow 0.5$)

・来期見通しの指標は2期連続でやや改善と予測。
($0.5 \Rightarrow 3.0$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
サービス業は改善、製造業はやや改善、小売業はやや悪化、建設業、卸売業は悪化。

・前年同期比の指標はやや改善。

